

平成 29 年度 第 1 回 学校関係者評価委員会 報告書

1. 日時：平成 29 年 10 月 17 日（火）15 時 00 分～16 時 00 分
2. 場所：日本福祉教育専門学校 高田校舎 221 教室
3. 出席者：委員 松山 慎司（社会福祉法人西東京市社会福祉協議会 専門員）
委員 渡辺 裕介（公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会）
委員 小内 仁子（東京都言語聴覚士会 学術局部員）
事務局 寺澤 美彦（教務副部長）
事務局 鈴木 達也（教務課）

4. 議事

平成 28 年 自己点検・自己評価について意見交換が行われた。

① 学校が行っている防災対策について具体的に教えて欲しい（小内）

平成 22 年から避難訓練を実施していたが、3 年前からはシェイクアウト訓練を実施している。シェイクアウト訓練とは、いつ・どんな場所であっても災害発生時に避難の行動が取れるようにする為の訓練である。（寺澤）

高田校舎と本校舎に災害備蓄品を用意している。危機管理委員会で毎年予算を取り、備蓄品の補充等の対応をしている。（鈴木）

② 国家試験について

入学希望者から昼間部と夜間部の合格率の違いについて質問を受けることが多い。

国家試験合格率については年度によってばらつきがあるため、誤算の範囲と考えるが、卒業生の立場から、委員の皆様のご意見をお聞かせいただきたい。（寺澤）

昼間部は 1 日の授業コマ数が多く学習機会を確保できる。夜間部は 1 日の授業コマ数は少ないものの、日中に福祉施設で仕事出来る為、視野を広げることができる。それぞれいい面があるので、国家試験合格率の違いについて説明するよりも、昼夜両方の利点を説明した上で本人にあった方を選んでいただければどうか（松山）

国家試験合格に向けたクラスの雰囲気作りが重要。クラスの雰囲気を乱す学生や、モチベーションが低い学生については早急に対処する必要がある。（小内）

③ 学生相談の仕組みについて

平成 28 年度より、学生相談課を設置し、学生相談の機能を強化した。専任カウンセラーは置いていないが、相談援助職の経験がある教員が学生から寄せられる相談に対応している。（鈴木）

学生相談課を設置したことにより、学生の相談内容が表面化してきている。（鈴木）

学生からの相談は投書箱への投書やメールで寄せられるが、精神的な相談から学校に対するクレームまで、全て学生相談室に集まってしまふ為、担当教職員の負担が大きくなってきている。(寺澤)

学生相談課に寄せられた相談内容については、学生相談課のメンバーが対応策を検討するのではなく、苦情処理委員会のような協議をする場があったほうがよい。(松山)

学生相談課があることは良いことだが、学生にとって建設的な場でないといけない。単に学生が願望や妄想を相談課にぶつけて実現できるような成功体験をしてしまうと、卒業して働くときに苦勞するのは学生ではないか。(松山)

学校に対するクレームまでメールや投書があるということは、学生が学生相談課の目的をしっかりと理解していないのではないかと(小内)

④ ボランティア活動について

学校運営の認知症カフェは、学校独自の取り組みとして評価できる。

豊島区や新宿区への施設に対するボランティア活動は、企業連携や地域貢献という意味で大変良い取り組みなので、引き続き続けていただきたい。(松山)

現在は音楽療法コースの学生が中心となってレクリエーションを行っているが、今後は他学科への広がりを検討している。(寺澤)

全体を通して

自己点検自己評価を拝見し、的確な事務管理をされていると思う。(松山)

国家試験合格率や退学者抑制、学生相談対応等、教職員の負担が大きくなっているように感じる。教職員が働きやすい環境整備も進めていただきたい。(松山)

5. おわりに

委員の意見を基に、今後も学校運営に対して改善を図っていきたい。今年度第2回の委員会は、3月の開催を予定している。

以上